

寺だより

23/02/20
第108号

真宗大谷派
青龍山西光寺
珠洲市正院町正院

仏暦二五六六年の幕開け

修正会(しゅしようえ)で

スタート!



2023/1/1 修正会

おのみそか
大晦日から年越しにわたり、除夜の鐘、並びに修正会を勤めました。

午後11時50分頃より、西光寺境内に除夜の鐘が鳴り始めました。厳しい寒さにもかかわらず大勢の方がおいでになられました。

除夜の鐘をついていかれまして、鐘が鳴る中、年が明けて午前0時より、修正会のお勤めが始まりました。修正会は、新年を祝うと同時に今年もお念仏と共に日々を送らせていただく誓いを新たにすお正月のすがすがしいお参りです。



2023/1/1 除夜の鐘

阿弥陀さまの前で新しい年を迎えさせていただいた喜びと仏恩報謝の気持ちをもつてお勤めをさせていただきました。

寒い中お参りいただいた方々ありがとうございました。どうぞございました。

ご門徒の皆さま、有縁の皆さま、今年もよろしく願います。

厳かに、西光寺で仏前結婚式!!



司婚者お祝いの言葉

世界には八十億人からの人がいます。

なぜ二人が出会い、結婚することになったのかは、不思議としか言いようがありません。

人間では知り得ない、まさに

仏教でいう「不思議」が人と人との出会いなのです。無数のご縁から出会った不思議。夫婦となつて同じ方向を向き、人生を共に歩んでいく。仏前結婚式は、そんな二人の決意をご本尊の阿弥陀さまに誓う儀式とされています。

2月11日(土)、午後一時半より、西光寺若院の仏前結婚式が、小木・法融

寺ご住職の司婚(司婚というのは、仏前結婚式を司る役目で、教会で結婚式をするときの牧師さんのような仕事です)により、本堂にて挙行されました。コロナ禍というということもあり、家族中心に結婚式のみを挙げさせていただきました。

光照寺住職の司会のもと、大谷雅楽会の皆さんの楽、善証寺住職の先導役、善証寺若院の会係り、光照寺坊守さん、柳昭子さん、瓶子睦子さんの三三九度係り、濱木満喜さんに写真係りしていただき、門徒代表・乙谷衛一さん列席の中、厳かな中にも温かみのある結婚式が行われました。



三三九度

前日の会場設営から式後の片付けまで、光照寺・善証寺、大鍛冶寿美子さん、三三九度係りの皆さんにお手伝いいただきました。多くのお世話をいただき、有り難うございました。

きつと、二人は、人生の荒波を協力し、支えあつて乗り越えることでしょう。

はるがんけ
春勧化の案内

2月26日(日)～28日(火)

午後二時より

* 28日は午後一時より

布教使 馬川 透 先生

(富山県南砺市)



馬川 透 先生

春勧化の勧化と

は、「仏さまの教えを説き、信心を勧める」という意味の言葉です。

昨年は、コロナ禍のため中止となりましたが、今年は日程を短縮して、

2月26日から28日までの三日間に渡って春勧化を勤めます。

いつもは大広間でお参りですが、コロナ禍を考え、本堂で勤めます。寒い時期ですが、暖かくして行います。皆様お誘い合わせの上、ご来寺下さいますようご案内申し上げます。

おこうさま料理をいただきますよう

春勧化の最終日、28日は親鸞聖人の命日にあたり、寺々の多くはこの日を『春勧化』の満座(最終日)にしています。



西光寺特製おこうさま料理

す。そのあと、本堂で春勧化のお勤め。法話があります。

今年より、お齋は椅子席です。どうぞお出かけください。

今年はこの最終日に、『おこうさま料理』を二年ぶりにお出しします。

午前11時より、お講はじめのお勤めのこと、大広間でお齋(おこうさま料理)をいただきます。

お講はじめのお勤めのこと、大広間でお齋(おこうさま料理)をいただきます。

二〇二三年度総代会報告



2023/2/5 総代会

2月5日(日)、総代会が開かれ、総代会組織、護持委員会に提出する議案等について、話し合いました。詳細は、「寺だより四月号」に掲載します。

◇護持委員会について

本年度の護持委員会は、コロナ感染拡大防止という観点から、多数の方が集まることを避け、昨年同様書面表決にて議決

本堂屋根・大広間屋根葺き替え修繕費現況

令和5年2月5日(日)現在

①	屋根葺き替え工事見積もり (矢野本家)	¥3,957,390
②	収入	
	(1) JA地震共済金	¥1,275,000
	(2) 能登教区地震見舞金	¥20,000
	(3) 本山より	¥330,000
	(4) 令和4年度維持費修繕費より	¥300,000
	(5) 令和4年度修繕費集金(293戸)	¥648,000
	合計	¥2,573,000
	* ①-②=	¥1,384,390

◇報告事項

地震被害による本堂屋根・大広間屋根葺き替え修繕費について

することになりました。なお、2月26日(日)に、役員が提出された書面表決書を集計します。結果につきましては「寺だより四月号」に掲載します。

春季彼岸会 3月21日(火) 午後二時

まだ一ヶ月先のことですが、春分の日の3月21日(火)はお彼岸の中日です。西光寺では、午後二時から、「春季彼岸会」をつとめます。

お彼岸の時期になると、お墓にお参りする姿が多く見られます。お彼岸は一般的には、ご先祖の供養をする仏事と考えられています。もともとは、自分自身の仏道精進の意味を持つ行事です。

浄土真宗において「彼岸」とは阿弥陀さまの「浄土」を指します。浄土は、私たちが還っていく世界であると同時に、迷いの世界である「此岸」に生きる私たちのあり方を照らし、私自身の生き方を問いかけてくる世界です。

お彼岸は、浄土に還っていかれた亡き人を偲ぶとともに、あらためて自らへの問いかけに耳をかたむけ、自分の生活を振り返る大切な時なのです。

法話は住職が行います。亡き人に思いをなし、お念仏のみ教えに耳を傾けてみませんか。

お彼岸をご縁として阿弥陀さまのお心に触れさせていただけ

きましよう。

西光寺春季彼岸会に、

どうぞお参り下さい。



年忌法要の案内

2023年度 年回法要

一周忌	令和4年 命終
三回忌	令和3年 命終
七回忌	平成29年 命終
十三回忌	平成23年 命終
十七回忌	平成19年 命終
二十三回忌	平成13年 命終
二十七回忌	平成9年 命終
三十三回忌	平成3年 命終
五十回忌	昭和49年 命終

ご法事を考えられている方は、年回法要表をご参考になりながら、日程などについては早めにご相談下さい。

「亡くなった方は今どうしていらつしやいますか？」と聞く方がおいでます

大切な方と悲しい別れをされて、その方は今、浄土へ生まれて仏になられているのか、それとも地獄などの迷いの世界にいらつしやるのか気になる方がおいでます。

正直に申し上げますと、その方の命の行方は私にはわかりません。しかし、その方の命の行方については何の心配

もありません。

浄土真宗では、阿弥陀仏という仏さまを大切にしております。

その阿弥陀さまは昔、法蔵菩薩であったときに、『生きとし生くるすべてのものを救える仏になりたい』と願いを立てられました。ここでの救いは、命終わつたときにお浄土という国に生まれさせ(往生)、尊い仏の命に仕上げる(成仏)ということ。そして、その願いを完成すべく、はかりしれない時間修行をされて、その願いを成就し、阿弥陀仏となりました。

そして今、「あなたを救える仏はもうここにいるから、命の行方は阿弥陀にまかせろ」とすべてのものに呼びづけておられます。

大切な方の命の行方、わたしの命の行方について、何の心配もいらぬ阿弥陀さまのおはたらきがあることが有難いなど思いつつ、いつも葬儀などの仏事をつとめさせていただいております。

本江寺地区の皆さんへ

「お取越しときはじ齋いは始め」のお参りですが、例年通り、三月初旬に予定していますのでよろしく願います。

2023年度 西光寺 法座・行事予定(案)

月	日	曜	時	法座・行事名	おつとめ	布教師	
1	1	日	午前0時~	修正会	阿弥陀経		
2	5	日	午前9時~	会計監査			
2	5	日	午前10時~	総代会			
2	26	日		護持委員会(書面表決)			
2	26	日	春勧化(はるがんけ)				馬川 透 師 (富山県)
2	27	月					
2	28	火	28日 お講始め				
3	21	火	午後2時~	春季彼岸会	みなさんと一緒に「正信偈」	禧美 尚章 (住職)	
4	15	土	宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教				
	16	日	開宗八百年慶讃法要 東本願寺				
4	24	月	午後1時30分	蓮如忌	正信偈行四句目下	廣陵 兼純 師 (輪島市門前)	
4	25	火	午後1時~	蓮如忌	みなさんと一緒に「正信偈」		
6	26	月	午後2時~	永代経	お経さんの後に、みなさんと一緒に「正信偈」	福谷祐正 師 (宝達志水)	
6	27	火	26日 前年度物故者追悼法要				
6	28	水					
8	15	火	午後3時~	盂蘭盆会法要			
9	23	土	午後2時~	秋季彼岸会	みなさんと一緒に「正信偈」	禧美 尚章 (住職)	
11	6	月	報恩講			みなさんと一緒に「正信偈」	諸岡 敏 師 (輪島市門前)
11	7	火	お日中;午前10時	〃 おおたいや			
11	8	水	お逮夜;午後1時	〃 結願日中			
11	9	木	午前9時	報恩講おさらい	正信偈		
12	31	日	午後11時45分	除夜の鐘			

○4月から10月まで、毎月8日に法和会を予定しています。

〓編集後記〓
結婚式を終えて

昨年十一月に世界の総人口が八十億人に到達したそうです。その半分が男性で、半分が女性と単純に考えてみますと、夫婦は、お互いに四十億の中から選び、選ばれたということになります。まさに偶然の出遇いです。

仏教では「ご縁」を大切にしています。結婚も、遠い過去からのばかり知ることのできない縁が重なってのことです。結婚する「ご縁」、そしてこれから生まれる多くの「ご縁」を大事にしてほしいと思います。

さて、出遇いはまさに偶然ですが、悲しいことに別れは必然です。

さまざまに別れがありますが、私の死ということによって、否応なしに、すべてと別れていかなければなりません。

大事な人と必ず別れなければならぬのですが、その別れの時に、「あなたに遇えてよかった。あなたのおかげでいい人生でした。有り難うございました。この度はお別れしますが、またお浄土でお会いしましょう。」と、この世のご縁だけで終わるのではなく、またお会いしましょうと別れることのできる二人になることを願っています。

南無阿弥陀仏